

円錐ホーンで励起されたニヤフィールドカセグレンアンテナ

1967 年（昭和 42）、衛星通信地球局アンテナとして、広い周波数帯域にわたり、1 次放射器をニヤフィールド領域で用いるニヤフィールドカセグレンアンテナを開発した。茨城衛星通信所の 20m アンテナを用いて、受信周波数 4 GHz で 57dB 以上の利得、仰角 20 度で 24° K 以下のアンテナ雑音温度、送信周波数 6 GHz で 59dB 以上の利得を実現した。

出典：KDD 社史